校章「北極星」と「天下の北中」について

新居浜北中の校章は、北中学校創立３年目に制定されました。

星形をバックに、中学校を表す「中」の漢字でできています。

この星形は、「北極星」を表しています。

この「北極星」に込められた思いは、

夜空に輝く全ての星が、北極星を中心として回転しているように、

この新居浜の、否、この日本の、否、どんなところでもいい、自分の置かれた場所で、

中心人物として活躍できるよう成長してほしい。

という思いが込められています。

この校章が制定されてからの北中生は、

この校章にふさわしい中学生になろうと、

努力に努力を重ね、

勉強はもちろん、部活動においても、数々の大会で素晴らしい成績を収めました。

そんな北中に入学してきた新入生は、

先輩たちの姿を見て、自分たちも先輩のように、

校章にふさわしい中学生になろうと努力を重ね、

先輩たちと同じように素晴らしい成績を収めていきました。

そのようなことが何代にも渡って続き、素晴らしい伝統が築かれていきました。

そんな北中を見た地域の人たちは、

いつしか北中のことを「天下の北中」と呼ぶようになりました。

「天下の北中」という言葉が一般的になると、

「なんしょんでや！天下の北中だろがや！もっとがんばらんけや！」

「なんしょんぞね！天下の北中が！しゃんとせないかん！」

と叱咤激励されるようになり、

北中生は、更に努力を重ねていったのです。

しかし、

時代の波とともに、

１０００人を超えていた生徒数は激減し、

努力しても、努力しても、

なかなか結果が出なくなりました。

さすがの北中生も元気がなくなってきたとき、

当時の校長先生と北斗会会長さん（北中では北中ＰＴＡを北中北斗会と呼びます）の発案で、

北中がどういう学校だったのかを生徒に知らしめ、どう行動すべきかを鼓舞するために、

北中の校舎に「天下の北中」という横断幕を掲げました。

現在、北中の生徒数は少ないままで、

いろいろなことで、なかなか結果が出ない状況は続いています。

しかし、生徒たちは、校章「北極星」と「天下の北中」の横断幕に叱咤激励され、

素晴らしい伝統を継承しようと努力しています。